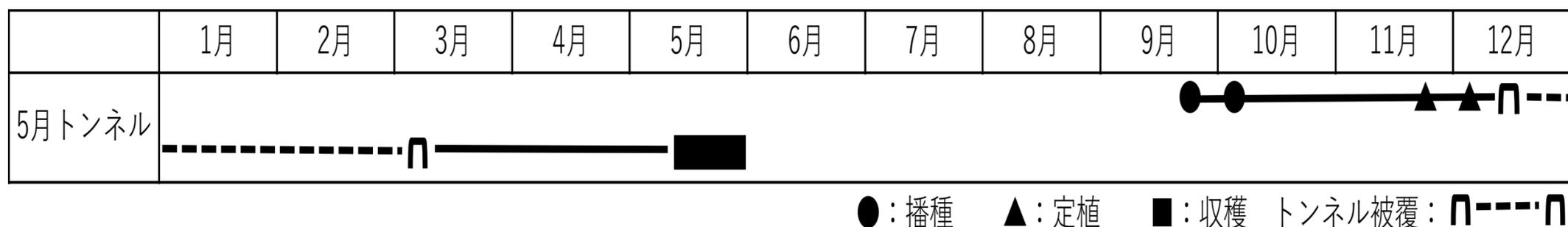


‘初夏一文字’を用いた5月中旬どり一本ネギのトンネル作型

5月中下旬は抽台の発生によるネギの端境期であり、抽台抑制が可能なトンネル作型で栽培が行われています。園芸試験場弓浜砂丘地分場では、5月中旬でも安定した収量を得ることを目的とし、肥大性に優れるネギ品種‘初夏一文字’に適した播種、定植日、被覆除去日を試験したので、試験結果についてご紹介します。

作型



試験1 適切な播種、定植日（表1）

9月下旬～10月上旬播種、11月下旬～12月上旬定植することで抽台発生を抑えつつ、十分な収量を得ることができました。

播種を9月中旬、定植を11月中旬に行うと抽台の発生が多い傾向があり、早期の播種、定植は2月上旬時点で低温感応する太さに達し、花芽分化を誘導してしまい抽台のリスクが高まると考えられました。

表1 異なる播種、定植日が収量および抽台率に及ぼす影響

試験年	播種日	定植日	収穫日	上物収量 ²		抽台率 (%)	2月上旬の葉鞘径 (mm)
				(t/10a)	(箱 ³ /10a)		
2016	9月15日	11月17日		4.4	1,168	17.5	6.3
	9月25日	11月25日	5月23日	5.3	1,488	0	5.4
	10月5日	12月7日		5.2	1,420	0	5.5
2017	9月16日	11月15日	5月16日	4.8	1,342	14.5	7.3
		11月24日		6.2	1,665	1.3	6.9
2018	9月14日	11月15日		5.8	1,600	2.5	5.8
		11月25日	5月21日	5.3	1,490	0	5.6
	10月2日	12月1日		4.9	1,463	0	4.7
2019	9月13日	11月15日		3.9	1,069	7.5	6.6
	9月25日	11月26日	5月14日	3.5	1,090	2.7	5.8
	10月1日	12月3日		3.3	872	0	5.8

²M規格(40～75g)以上の合計収量

³3L:14本/箱、2L:20本/箱、L:30本/箱、L4:40本/箱、M:65本/箱として算出

※3月中旬～下旬に被覆を除去、その後適宜灌水

試験2 適切な被覆除去日（表2、図）

3月11日に被覆除去を行った試験区は早めに追肥、土寄せ管理を行うことができ、3月14日以降に被覆を除去した区と比較すると収量が増加し、太物割合（2L率）が増える傾向が見られました。

表2 被覆除去の早晚が収量^zに及ぼす影響

試験区	被覆除去日 (3月)	重量 (t/10a)	調整重 (g/本)	出荷箱数 ^y (箱/10a)	2L率 ^{x1} (%)	2L+L率 ^{x2} (%)	抽台率 ^w (%)
	11日	4.9	135.0	1,346	24.7	93.2	0
	14日	4.4	117.5	1,219	11.3	73.5	0
	25日	3.5	98.9	1,090	1.4	75.7	2.7

^zM規格以上の割合 ^w抽台率=抽台株数/収穫株数×100

^y3L：14本/箱、2L：20本/箱、L：30本/箱、L4：40本/箱、M：65本/箱として算出。

^{x1} (2L規格(150~230g)本数) / 上物合計本数×100

^{x2} (2L規格(150~230g)本数+L規格(100~150g)本数) / 上物合計本数×100

※2019年試験 播種：9月25日 定植：11月26日 被覆開始：12月10日～



図 収穫時の様子（2020年5月14日）（左：3/11除去、右：3/25除去）

安定した収量を得るための管理

播種日：9月下旬～10月上旬

定植日：11月下旬～12月上旬

被覆開始：12月中下旬（2月上旬頃に被覆を一時除去し、追肥、灌水）

被覆除去日：3月上中旬（被覆除去後は適宜灌水）

※本試験は、200穴セルトレイに4粒/穴播種し、株間10cmで定植しています。
栽培様式が異なる場合は別途検討が必要です。